

CONTENTS

文化庁月報

1993 **9** No.300

特集●文化庁25年 文化庁創設25周年・通巻第300号記念特集号

巻頭言	文化庁創設25周年に当たって	内田弘保	4
歴代長官が振り返る文化庁の歩み	長官時代を振り返って	安嶋 彌	6
	長官時代を振り返って	犬丸 直	8
	長官時代を振り返って	佐野文一郎	10
	長官時代を振り返って	鈴木 勲	12
	鎖 帷 子	三浦朱門	14
	文化庁の二年間	大崎 仁	16
文化庁に期待すること	長官時代を振り返って	植木 浩	18
	10代目の長官として	川村恒明	20
	まず、地方劇場の水準向上を お笑いで「三方良し」の国際交流を 新しいオペラ・ファンの育成を	永井多恵子 桂 文珍 錦織 健	22 24 26
年 表	文化庁25年の歩み		28

都道府県のページ

ご存じですか? こんな文化財③	
富士山・大善寺本堂	34
一度は行きたい博物館・美術館⑥	
夢二郷土美術館	37

法人紹介～文化に息吹を～

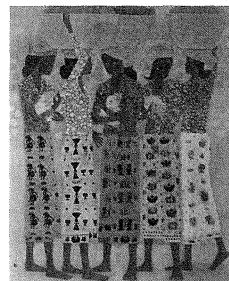
実績で著作権制度の基盤を支える	
(社)日本音楽著作権協会	40

ACA(Agency for Cultural Affairs) NEWS

第48回文化庁芸術祭協賛公演・参加公演	47
第17回全国高等学校総合文化祭開催	49
東京国立博物館本館閉館のお知らせ	45
文化財補助金文付要綱の改正等	50
●著作権法利用講座⑥	42
●文化財保護法発掘講座⑥	43
●芸術文化振興基金ニュース	52
●今月の国立劇場	55
●編集後記	56

イベント案内

第40回日本伝統工芸展／三越本店	44
第35回ブロック別民俗芸能大会	46



「娘たち」(文化庁平成2年度買上作品)

入江西一郎/作

いりえ・ゆういちろう/大正10年京都府生まれ。京都市立美術専門学校研究科卒。昭和22年より38年まで法隆寺、宇治平等院等の壁画模写に従事。38年日展初入選。以後日展を中心に活躍(特選2、白寿賞1、審査員1)。現在:日展会員、農鳥社委員。

期待すること

文化庁に

まず、地方劇場の
水準向上を

NHK解説主幹

永井多恵子

いい」には違いないが年々豪華になっていく建物に比べ事業運営費のあまりの少なさには愕然とさせられる。

建つてからが始まりなのは学校や病院と同じなのに、劇場だけはそれでもう終わってしまったかのようだ。オープニングは華やかだがその後の自主事業が年平均二・五回（文化経済学会員調査、後は貸し小屋ということになるから、学習塾のPTA会場となることも、農協大会になることもある。もちろん、劇場を知ってもらうためにもなるべく沢山の地域の人（納税者）が出入りしたほうがいいという理屈もわからないではないが……。

どうしても不思議なのは百億もの建築費があるのになぜそれを基金に地元のあるいはその地域で活動しようという芸術家を援助し活性化する事業から始めないのか、ということだ。人材育成でもいい、ともかく中身あつての建物だという議論を徹底させていくべきだと思う。それでも「建物」からのほうが理解されやすいというのが日本人の文化水準なのだろうか。

普通、ヨーロッパ的に言うと劇場とはそこで活動する団体のことを指す。「ここには劇場

出来てしまったからしい。
というわけで雀百まで、放送の世界に入つてからは仕事としても数々の舞台をみるようになった。当然、世界に冠たる低文化予算の文化庁にはしていただきたいことが沢山あるのだがとりあえず言いたいのは地方の公共劇場の在り方と舞台芸術の水準である。
今自治体立の劇場は千を越える。無いより

私にとって最初の絵本は錦絵だった。戦争で読もうにも本屋さんに子供向けの本はなく歌舞伎好きだった祖父が『そこで岩藤がな……』と家にあつた二冊の錦絵の加賀見山田錦絵のところを何度も開いて話してくれた。鵬長けた尾上、忠義者のお初は特に好きだった。戦後、本物の歌舞伎をみるようになって何となく物足りない思いをしたのは錦絵を通じて確固とした「かぶく世界」が私の世界に

る。

ちなみにドイツのデュセルドルフのオペラハウスでは座付きソリスト、専属のコラス、アトリエに働く職人、技術者それに文芸スタッフ等千人の人員費を中心に毎年四十億円を計上、年に三百回以上の上演を行っている。人件費をいかに切り詰めるかが生き残りの鍵のような産業社会にあつて手づくりの舞台芸術が市場になじむはずもない、公的支援は当然であり、それ故芸術性の高い舞台を地域の人々は楽しみ、精神の満足を得るといふ考えが定着しているのである。

日本の地方にもオペラハウスをと言っているわけではない。それぞれの地域の伝統に根ざした芸能を掘り起こし現代の視点から新しい舞台を創り出す作業こそ必要だ。その土台づくりには行政は芸術活動団体へ時間の保障を与えるべきだと思う。そこで何が生まれるか、劇場の形も中身にふさわしいものが作られるはずである。

少なくとも人口規模百万を越える中核的都市の劇場には幾つかの都市との共同でもいい、職業芸術集団を座付きで持つ程の覚悟がいるのではないだろうか。芸術家集団も地域に根づき技術を磨きその社会の精神的支柱として貢献する志が必要であらう。

第二国立劇場の場合はどうなるのであろうか。立派な劇場を前に「わが国には未だ国立劇場がありません」などということにならないように。職業芸術集団の創造と育成の場として、地方の公共劇場が参考とするあらゆる情報収集の場として又何より訪れる外国人に「日本の現在」が実感出来る場として活かしてほしい。私見だがその運営事業費は文化庁単独ではなく国全体として考えられていはいはずのものと思う。

最後に、本来文化政策はあらゆる行政施策（特に都市計画）につながる視点をもつべきものと思う。……がわが国では未だ確立されていない。文化等役に立たぬ軟弱なものとして退けられてきたからだ。出遅れただけに仕事は山程ある。

文化に理解のある新政権誕生をきっかけに飛躍の時である。

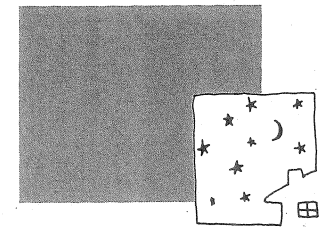


9月文化庁行事予定

- 9日・院展授賞式（上野精養軒）
- 10日・芸術祭執行委員会（第2回）総会（尚友会館）
 - ・文化財保護審議会（文化庁）
- 12日・「日本とヨーロッパ：1543～1929」展オープニング（東ベルリン国立オペラ劇場）
- 17日・芸術祭国際公演歓迎レセプション（ダイヤモンドホテル）
- 18日・芸術祭国際公演（国立劇場）
- 21日・都道府県・指定都市文化行政主管部課長会議（都道府県会館）
 - ・都道府県・指定都市文化行政主管部課長会議懇談会（都道府県会館）
 - ・第40回日本伝統工芸展授賞式（日本橋三越本店）
 - ・第40回日本伝統工芸展レセプション（日本橋三越本店）

〇お詫び

8月号のACA NEWS「民間芸術等振興費補助金の交付状況」の内容に誤りがありました。「芸術の国際交流促進事業のうち「日本・マレーシア青少年ジョイントコンサート実行委員会」への補助金額は千五百万円ではなく百五十万円です。お詫びして訂正いたします。



文化庁月報 9月号（通巻300号）

平成5年9月25日印刷・発行

編集—文化庁

〒100 東京都千代田区霞が関3-2-2

発行—株式会社きょうせい

本社 〒104 東京都中央区銀座7-4-12

電話03(3571)2126（代表）

営業所 〒162 東京都新宿区西五軒町4-2

電話03(3268)2141

振替口座 東京9-161番

印刷所—（株）行政学会印刷所

定価500円（本体485円）送料51円

年間購読料6000円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込み下さい。

広告の問い合わせ・申し込み先

（株）きょうせい営業第一課宣伝係

電話03(3269)4145（ダイヤルイン）

©1993 Printed in Japan

ISSN 0916-9849

編集後記

25という数字は、欧米では100の四分の一に当たるということで、20や30よりも大切な節目と考えられているようです。我が国でも「四半世紀」という表現があるにはありますが、あまり定着していません。百周年、五十周年が盛大に取り扱われるのは当然として、やはり日本では十年単位で記念する機会が多いように思われます。「十年一昔」という言葉にもあるように、十年が切りがよいというだけでなく、一時代くらしい意味を持つた大きな区切りとして考えられているせいかも知れません。

他方、「国家百年の計」とも言われます。文化庁も含め政府の仕事というのは全てこのような性格を有していると言えますが、日常勤務の中でいつもこの言葉を意識するというのもなかなか難しいものです。そこで、と言うのも少々強引な話ですが、我々も創設二十五周年を契機として文化庁の百年の計に改めて思いを致しながら、文化行政の発展に努めていきたいと思ひます。今後ともよろしく願ひします。

（K）